

(様式)

令和5年度 学校評価 学校関係者評価書

学校名	三木市立別所中学校
-----	-----------

1 学校教育目標

夢と感謝の心を持ち 知・徳・体の力をつけ 自立して共に生きる生徒の育成	
(1) 子どもたちの挑戦や自己実現を支える学校	(3) 保護者・地域から信頼される学校
(2) 安心・安全で、規律ある学校	

2 本年度の重点目標

(1) 9年間を見通した学習指導の充実	(4) 特別活動における学校行事・生徒会活動・部活動の充実
(2) 生徒理解に基づいた生徒指導	(5) 保護者・地域との連携
(3) 自他を大切にす道徳・人権教育・特別支援教育の充実	(6) 美しく、生活しやすい環境づくり

3 自己評価結果(達成状況) 【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
学習指導	① 9年間を見通した学習指導の工夫・研究	① 昨年度作成した9年間のカリキュラムをもとに、小中で授業を参観し合ったり、出前授業を行った。秋には「生徒が主体的・協働的に学ぶ授業」と題して、研究授業を実施した。全教師で参観し、生徒の個人個人の学びのプロセスを見取った。生徒の実態を共有し、授業の在り方や意識を考える機会となった。また、今年度は、教科外のカリキュラムも作成し、小中のつながりを意識した情報共有ができた。モジュール学習ではAIドリルを活用し、生徒一人一人の理解度や学習到達度に応じてそれぞれの学習課題に取り組めた。	B	① 今後も小中一貫教育実践推進校として、相互参観や出前授業を行い、9年間の見通しを持った取組を計画していく。特に来年度は学習に関して、小中で統一した研究主題を掲げるなどし、児童生徒の発達段階に合った内容の検討やカリキュラムの完成を目指す。
	② 放課後等を活用した補充学習	② 数学・英語を中心としたStep Up Time(放課後の補充学習)では、基礎的な学力をつけるための学習に取り組んだ。自主的に参加する生徒もおり、個々の苦手克服のために学習できた。3年生を対象とした放課後学習のJump Up Timeでは、自主的に参加する生徒が多く、個々の学習に前向きに取り組んだ。夏季休業中の補充学習では、学年ごとに開催日や時間を設定し、学年の生徒の学力に応じた取組を進めていった。	B	② Step Up Timeにおいては、週1回の時間の確保に努め、計画的に行いたい。Jump Up Timeは引き続き実施し、生徒のニーズに合わせて学習を進めることができるよう工夫していく。夏季休業中の学習においては、今年度同様、生徒が参加しやすい時期や時間帯を検討し、基礎学力の定着を目指す。
生徒指導	① 生徒理解に基づいた生徒指導の推進	① 普段から生徒との関りを大切にするとともに、カウンセリング等を活用して、問題行動の未然防止に努め、発生したトラブルに対しても早期に対応することができた。校則を見直す活動では、全校生徒で話し合う機会を持ち、変更内容に生徒の意見を取り入れることができた。	A	① 引き続き個々の生徒理解に基づいた丁寧な対応を行い、問題行動の未然防止に努めていく。SNS等の利用モラルについては、生徒の実態を把握しながら、適切な情報モラル研修等を計画し、教職員とともに学んでいきたい。校則等の見直しについても、継続的に取り組み、生徒が主体的に学校生活を営むことができるよう支援していきたい。
	② 関係機関と連携した不登校への取組	② 毎週不登校対策委員会を定期的に開催し、情報共有とケース会議等を行ってきた。また、年度途中からサポートルームを開設した。適応教室、学校生活支援教員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スーパーカウンセラー、子育て支援課等と連携し対応を進めているが、不登校の要因や背景が多様化する中、状況が進展しないケース等もあり、今後も継続した取組が必要である。	A	② 不登校問題についてはその要因や背景が多様化しており、対応が難しいケースがある。社会的な自立に向けた目標を検討し、様々な角度から支援方法を検討していく。学習面で不安を抱える生徒も含めて、サポートルームを有効に活用するなど、個々に応じている範囲での課題の設定を提案し、不安解消に努める。
道徳・人権教育	① 道徳教育の充実	① 読み物資料を中心に、各学年担当教師がローテーションで授業を行い、教師の指導力の向上や、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を複数の教師の目で見取り、多面的・多角的に生徒を把握する機会となっている。校内研修では、事前研究に重きを置き、「道徳の授業づくり」をテーマに研修会を3度開催し、教材の読み方、分析シートの活用、発問の工夫等について皆で考え、研究を深めた。また、全校道徳として「震災に学ぶ」授業を実施し、各学年の発達段階に応じて震災をテーマとして考えを深める授業を行った。長期休業では、「心かがやく」を家庭に持ち帰り、自分の感想とともに保護者にもコメントをいただくなど、家庭での道徳的価値に関する話し合いの機会となるよう連携を努めた。	B	① 生徒の道徳性に関する変容を見取ることは難しく、また日常の行動・行為などには表面化しにくい。「継続的」な視点で、長期にわたって子どもの変化を見続けていく必要がある。また、全校道徳などの機会を活用し、授業で取りあげたテーマについて家庭でも一緒に考え、議論していく機会を増やしていく。道徳授業のさらなる充実に向けて「考え、議論する道徳」を目指し、授業づくり、授業展開が工夫できるよう教員の指導力向上のための研修や授業研究を引き続き実施していく。また、生徒の実態に応じた資料の精選や、全体計画、各学年の年間計画を見直すとともに、小学校からの学びの連続性、系統性を考慮し、9年間を見通したカリキュラムとなるよう検討していきたい。
	② 人権意識の向上	② 今年度も5月に春川先生を招いて講演していただいた。春川先生の経験に基づいた内容で、生徒が人権問題だけでなく、人々とのつながりの大切さや人間の持つ生きる力について考える時間であり、楽しい学びの時間となった。6月には、人権作文標語発表会を開催した。各学年の代表者による標語や作文の発表、ポスター掲示などをもとに、全校生徒で国際理解や高齢者問題、SNS上での問題、LGBTQなどについて考えることができた。また生徒がその場で思いや考えを発表し、自分の意見を深化させることができた。12月の全校道徳に先立つ形で、同問題の歴史について知る時間を設け、その後の道徳では三木市の指定教材を使って、全学年が今もなお残る差別について深く考えるいい機会となった。	B	② 毎年行っている人権作文標語発表会は、お互いの思いや考えを知ることができる良い機会となっているため、今後も継続していきたい。今年度は同問題の歴史についての学習した。部差別の非承認感を感じることができたと同時に、今も続いている生徒たちの身の回りの差別にも目を向けることができた。今後も自分を大切にし、他の人も大切にできる言動が実践できるような指導を続けていきたい。来年度は同問題だけでなく、その他の人権課題に関してもより力を入れて取り組むたい。
特別支援教育	① 支援を要する生徒の理解と支援の充実	① 生徒が抱えるつまずきや困難について全教職員が共通理解し、特別な支援を要する生徒の把握と支援方法の検討に取り組んでいる。スクールカウンセラーや学校生活支援教員や特別支援教員補助員と連携し、情報交換を密に行い、支援を要する生徒の理解と支援の充実を図っている。主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進している。	B	① すべての教職員が個人情報の保護に配慮しながら、発達障害等のある特別な支援を必要とする生徒への指導はすべての生徒にとって分かりやすい授業につながるのと共通理解を図り、学校全体で組織的、計画的に取り組んでいる。主体的・対話的で深い学びの実現に向け、学ぶことに興味・関心を持ち自己のキャリア形成と関連付けながら活動の振り返りを行い、次につなげられるようにさせていく。
	② 保護者・関係機関との連携による情報の共有	② 生徒の実態把握を担当や学年、養護教諭、教科の先生を中心に行い、個別の支援計画、個別の指導計画を作成し、具体的な支援方法について、配慮が必要な生徒やその保護者への支援を関係機関とともに進めている。中学校生活において各生徒が困っていることに寄り添い、合理的配慮に基づく支援の在り方を話し合い、指導を行っている。三木特別支援学校との居住地交流を学期に一回行っている。	B	② 担任は配慮を要する生徒の状況や学校生活での困難さを的確に把握し、個別の指導計画を作成、認知特性等を踏まえた対人関係スキルの習得を目指し、自立活動を適切に位置付けた教育課程を編成、工夫していく。過級生徒や支援学級生徒の自立の時間は生活に結びついた具体的な活動を学習活動の中心に据え、生徒の生活年齢に即した指導を徹底する。学校と家庭が一貫した支援を行うことが支援の効果をもつにつなげるため、その指導、支援の内容について保護者や関係機関と引き続き連携を図っていく。
特別活動	① 自己有用感を感じる集団づくり(学校行事等)	① 文化祭では、今までの枠にとらわれない自由な展示作品や、ダンス・歌唱・演奏など様々なジャンルの舞台発表があり、多くの生徒が活躍できる雰囲気づくりを進めた。また、生徒の実状を考慮し、実施できる学校行事等の工夫を行い、生徒が達成感や自己有用感を感じることができた機会を創出した。	A	① 一人一人に居場所があり、安心できる集団作りに向け、自主性の伸長や、好ましい人間関係の育成のために、教育相談の充実を図り、対話を重視した指導を行った。これからも学校行事や学級活動などの見直しを進めると同時に、生徒に主体的な活動を促しながら過ごしやすい学級、学年、学校づくりに努める。
	② 生徒の主体的活動に基づく生徒会活動の活性化	② 生徒会執行部主体に生徒自らが行事をよりよくしていくとする運営ができた。特に体育祭では3年生がリーダーとなり、それぞれの団が目標に向けて主体的に努力をする姿が見られた。生徒会を中心に、全校生徒で現在の校則の改善点などを話し合い、校則の見直しを進めた。	A	② 生徒主体の行事の持ち方を今後も続けていく。生徒自身の主体性を重んじながら、課題を考えさせることにより、今ある活動を見直し、自分たちの学校生活を自分たちの手で改善していくという姿勢を大切にしながら、より充実した学校生活をめざした指導を行う。
保護者・地域との連携	① 通信・HP・懇談会等による開かれた学校づくり	① 学級、学年、学校通信等の発行及びホームページの更新により、積極的な情報発信に努めた。また、年3回のオープンスクール、地区懇談会、体育祭、文化祭、人権講演会、ハートフル講演会を実施するなど、教育活動を公開したり、保護者や地域の方と意見交換をしつづける機会を設けた。	A	① 行事がマンネリ化しないようにその都度内容や計画、実施日時等を見直し、足を運んで良かったと思える取組を推進する。また、保護者や地域の方に積極的に関わっていただけるようにするため、オープンスクール等で実施するアンケートでの意見を参考にするなどしながら、取組を工夫する必要がある。
	② 地域行事への積極的な参加によるふるさと意識の醸成(地域と連携した心豊かな生徒の育成)	② 別所町まちづくり協議会と協力して2回のクリーンキャンペーンを実施し、多くの生徒が自主的に参加した。また、納涼大会や別所町民文化祭では、音楽部や美術部の部員をはじめ多くの生徒が楽器の演奏や合唱、作品の出品を行った。生徒会役員が司会や抽選会の運営を担ったりした。また、別所町人権教育研究大会では生徒代表が作文の朗読をするなど、行事を通して地域に貢献した。	A	② 生徒会活動やPTA活動とも連携を取りながら、より多くの生徒が自発的に地域の行事に参加できるようにPRしていく。また、部活動とも調整を図りながら多くの生徒が地域行事に参加し、地域の方と触れ合うことにより、「ふるさと別所」を意識させ、地域を支えられている学校であることを一層意識付けていく。
施設・設備の改善と維持	① 心癒される美しい環境づくり	① 授業に集中しやすい環境を整えるため、ロッカーの上に物を置かない、鞆はロッカーに入れるなど、整理整頓された教室環境の維持に努めた。また、生徒の成果物や行事の写真等を教室や廊下に掲示するなど、生徒の自尊感情や学力の向上をめざした教職員の校内環境整備に対する意識が感じられる。	A	① 生徒のさらなる自尊感情や学力の向上を図るため、教室の整理整頓や教室や廊下の掲示を工夫するなどし、落ち着いた美しい環境づくりをさらに推進する。また、生徒の校内環境整備に対する意識が定着するよう、教職員が率先垂範し、整理整頓を心がけ、きめ細やかな指導ができるよう取り組んでいく。
	② 整備された環境の維持管理(積極的な清掃活動への取り組み)	② 分担区域において、時間内はしっかりと清掃に取り組むよう指導するとともに、教師も共に清掃活動を行った。その結果、生徒、教職員共に校内の環境整備への意識がより高まった。	A	② 清掃への取組や物を大切に使う意識をさらに高めていくための指導を行う。特に美しく整備された環境を維持し、後輩につないでいく責任があるという意識の定着を図る。

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の方法は適切である 今年度の教育活動における内容、特に小中一貫教育に向けた取組などが明確にされており、改善に向けても具体的に検討されている。 自己評価の資料としている三者(生徒・保護者・教職員)に実施した学校評価アンケートの結果、考察についても、昨年との比較とともに回答内容の詳細にも目が向けられ、適切な評価方法であると考える。
--

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

<p>学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己評価および改善の方策は適切である。 昨年度から取り組んでいる小中一貫教育に向けた職員研修や児童生徒交流が着実に進められている。特に学習においてはカリキュラム作りだけでなく、小中学校間で参観等も積極的に進められ、教職員の相互理解も深まりつつある。児童生徒の学びの質を高めることができるよう今後の取組にも期待したい。 生徒の変容に着目した研究授業を行い、議論するなどの研修が進められているが、個別最適化、ICTの活用、協働的な学びなどの視点から、個々の課題にしっかりと向き合うことができるよう授業形態や教材の提示方法など更なる授業の工夫に期待したい。 放課後等を活用した補充学習においても、これまでの積み重ねをもとにタブレットの活用など生徒が主体的に取り組む、基礎・基本の確実な定着をお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価および改善の方策は適切である。 規範意識の醸成やモラルの向上などが図られるとともに、教育相談やカウンセリングなど生徒に寄り添った指導が推進されている。落ち着いた学校生活が過ごしているなか、自分たちで校則を含めた学校生活を見直す活動が行われている。この活動を通して自立心や判断力が育成されることに期待したい。 ここ数年不登校の人数は残念ながら減少していないが、それぞれのケースに応じて細やかな対応がなされている。多様化する子どもたちの状況に応じ、関係機関、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等とともに小学校とも連携を図りながら、不登校対応とともに未然防止に努めてもらいたい。
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価および改善の方策は適切である。 担任だけでなく全教職員が道徳の授業に関わるとともに、研究授業など指導力の向上に取り組んでいる。また、全校道徳や家庭との連携など、計画的、組織的に道徳教育を進めることができている。生徒たちも前向きに取り組んでいる様子であり、今後も更なる充実を努めていただきたい。 人権講演会や人権作文発表会など人権意識の高揚に向けた取組を継続し、今年度も生徒・保護者とも肯定的評価が高い水準にある。今年度は9年間の系統性を意識したカリキュラムも作成されており、これからの活用とともに新しい人権課題への対応も検討していただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価および改善の方策は適切である。 それぞれの成長や発達等に応じた支援が常に検討され、きめ細かな学習が進められている。特に特別支援学級では特別支援教育指導補助員等を含めた教職員の支援体制が確立され、生徒が安心して学べる環境となっている。 学校生活支援教員と連携した通級指導や通常学級での配慮などについても、個々の状況とアセスメントから更なる支援を工夫していただきたい。また、関係機関との連携も引き続き効果的に進めていただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価および改善の方策は適切である。 生徒・保護者が体育祭や文化祭などの学校行事を肯定的に受け止めていることから、生徒の主体性を大切に運営されていることが伺える。引き続き学校行事の教育的意義を見出すことなく、計画や運営において生徒を中心に据えた学校行事を検討してほしい。 生徒会を中心に学校生活を見直す活動を全校生徒で議論するなど、昨年から取組を継続することができている。特別な機会だけでなく、あいさつ運動や給食時や放課後の放送、図書室の開放、保健関係の活動など日常的な生徒会活動にもしっかりと取り組んでいる。
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価および改善の方策は適切である。 オープンスクールを含む行事、学校通信(別中ありがとう)、HP等で積極的に保護者・地域へ情報発信がされている。今後も地域と一緒に活動の機会を設けるなど、地域に根ざした学校運営、保護者・地域と連携した教育活動の推進をお願いしたい。 地域行事に参加しようという生徒の意識は、昨年の学校評価の結果と比較しても、高い水準を推移していることがわかる。今後も、別所町まちづくり協議会等と連携し、地域の方へ積極的な参加を呼びかけるなど、「ふるさと別所」を愛し、地域の一員としての自覚を支えさせる指導をお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> 自己評価および改善の方策は適切である。 肯定的評価は生徒・教員とも上がっている。教職員が率先して美しい環境づくりを行うことにより、生徒も清掃活動やロッカーや机などの整理・整頓にしっかりと取り組んでいることがわかる。 大規模改修による環境整備により美しくなった校舎を維持するため、今後も4S(整理・整頓・清掃・清潔)の指導に力を入れてもらいたい。そして、美しい施設の中で、安全で、また安心して生徒たちが学校生活を送れるように、学校環境の維持に努めてもらいたい。